

R7 学校研究

① 研究主題及び副題

『自ら考え、表現する子の育成 ～ 共通の軸を大切に～』

② 主題設定の理由

昨年度、主題を「自ら考え、表現する子の育成 ～アウトプットを大切に～」として研究を進めてきた。重点①「主体的に考える姿をめざして」では、児童が主体的に考えたい学習課題の設定・資料提示・教材教具の工夫をする、児童の思いを軸に黄金シートを使って学習計画を立てる、自己選択・自己決定の場を設定するという手立てをとってきたことで、自ら考えようとする姿が多く見られるようになった。重点②「高め合う姿をめざして」では、思考を可視化・共有化する、児童のつまづきや困り感を見取り全体に広げる、アウトプットする場面を意図的に設定するという手立てをとってきたことで、自分の考えを高めようとする姿につなげることができた。

本校の児童は、学習に対して意欲的であり、授業の主役は自分たち一人一人だという意識をもって学習に向き合うようになっている。協働的な学びの場である交流する場面では、友達との対話を通して自分の考えをより良いものにしようとする姿も見られ、学習に対して主体的に動き出す子供たちに育ってきている。これは、教師が子供主体の授業を意識し、子供の「～したい」という思いを軸にした授業展開、子供に委ねる場面の設定、学びや変容を実感する終末（黄金の10分間）の確保を実践してきたからである。しかし、課題に対して児童の考えが広がりすぎて収束しなかったり、思考の土台がそろっていないために交流はしているものの対話がかみ合わなかったり、児童に委ねる場面を設定してきたことで教科のねらいや見方・考え方に迫ることができなかったりすることがあったのである。どの教科においても、その教科の特性が現れる共通の軸（思考の方向性）を明確にすることで、より主体的に考えたい姿や友達と考えを伝え合いたくなる姿、もっと追究したくなる姿につながると考える。

今年度も、主体性を引き出すためカリマネの柱を「自分で考える力を付けよう」とし、研究では、子供主体の授業となるよう工夫し、自ら考える力を伸ばし、考えたことを目的意識や相手意識、さらには教科横断的な思考のつながりを意識して表現する力を付けていきたい。そこで、今年度は、研究主題は引き続き「自ら考え、表現する子の育成」と、副題を「共通の軸を大切に」と設定した。重点を、①「主体的に考える姿をめざして」、②「高め合う姿をめざして」と設定し主題に迫りたい。

重点① 主体的に考える姿をめざして

自ら「やってみたい」「知りたい」「考えたい」という「～したい」という思いをもたせ、意欲的に考えをもとうとする姿をめざす。そのためには児童が考えをもちたくなるような課題設定、導入や教材教具、提示の仕方の工夫、段階的に学びを委ねる場の設定、個別最適な学びの確保をし、見取りを行いながら指導に生かしていくことで主体的に考える姿に迫っていきたい。

重点② 高め合う姿をめざして

高め合うとは協働的な学びの中で、「考えがもてなかった子が考えをもつ」、「考えが変容する」、「考えが確かになる」「考えが広がる」ことである。教科の見方・考え方を働かせることができる解決の見通しを児童がもてるように、共通の軸が生まれる仕掛けをしていくことで思考を高めていく姿に迫っていきたい。